

道徳通信

No.16 2022年(令和4年)12月19日(月)



学習日：12月15日(木) 内容：「四十七年に感謝をこめて」

自分たちを育ててくれた学校の老朽化に伴う校舎の解体・新築によって、学校の自慢であった広廊下とも別れなければならないようになった南中生たち。そんな自慢の広廊下を使って思い出作りができないかと、生徒会が主導してお別れイベントを企画した。それが広廊下を使って「140メートルののり巻きを作る」というものだった。そして、生徒一人一人が自らの役割を自覚し、一つの目的のためにさまざまな人たちと協力して、のり巻きを完成させたのである。同じ中学生が舞台の話なので、共感とあこがれを持って今後の集団生活を充実させていこうと考えるいい機会にしてほしい。

【生徒の考え】 授業後に考えたこと、感じたこと

ここでのみんなと過ごした思い出を誇りを持って大切に、この思い出を忘れることのないようにしたいなと思いました。

自分が過ごす松永中学校にもたくさん誇りにできることがあるので、それを大切にしていこうと思いました。

誇りを持つことが、自信につながり、ポジティブに生きることに繋がるということが理解できた。

今月の授業を通して、自分の学校ではどんな誇りを持てるのか考えることができたし、松永中学校には、たくさんの誇りがあることが分かった。

今、こうし松永中学校に入学できてみんなと生活できていることに誇りをもたないといけな いと思いました。これからも松永中学校2年のメンバーでいい思い出をつくろうと思った。

中学校での思い出をたくさん作っておきたい。誇りは自信になる。

「松永中学校には、たくさんの誇りがある。」多くの感想文からこのような記述を見つけることができました。

これから皆さんが松永中学校の最高学年として1・2年生を引っ張り、松永中学校の伝統をつくっていきます。後輩たちが誇れる学校をつくれるようにともに頑張っていきましょう。